



## 表千家茶道師範

# 松川 Tomoyo MATSUKAWA 知代

松川知代さんは茶道表千家の師範であり、また華道は未生流分甫会の師範であります。この大阪狭山市での活動は40年表彰の通りなのですが、出身地は隣の堺市。実家の姓を赤野といい、幼名は唯子(ゆいこ)。父上は堺市立浜寺小学校の先生、極めて厳格な教育者の家庭……だったと思いきや、この父上中々の風流人で歌舞音曲芸能事に通じてられ、唯子さんは幼少の頃から父上に連れられての歌舞伎や文楽など芝居見物。芸事への知識は育まれていきまし

た。舞台で見てきた踊りや箏・三絃などにも興味を持ち、毎日が習い事で埋まっていました。またお母さんがお客にお茶を点でてもてなされるのを見ていてお茶にも興味をそられました。まあ、こちらは  
お茶菓子の饅頭欲しさという極めて単純な思考回路によるものだったのですが、それでも小学校を卒業する頃から茶の湯を学ぶことになりました。最初に手ほどきを受けたのは岩本八重子先生、女学校(大阪府立堺高等女学校、現泉陽高校)時代の半ばから堺市の著名な茶道家多田宗和先生に教



松川 泉義さん

えを請い、本格的に茶道を学び始めます。女学校3年の時、堺大空襲、家は焼失し河内長野の親戚に身を寄せます。そして怯まず清水谷高女の専攻科に進み3年間通います。その頃には好きな編み物・人形作りの免状を取り、又YWCAで料理を習い先生になれと云われるなど自称「よろず屋唯子」になっていました。それから数年、24才で表千家茶道師範の免

状を得て茶道の道を歩み出します。堺市茶道協会に入会、堺祭の第一回茶会から活動開始。翌年25才で大阪狭山の松川家、松川泉義さんと結婚、名を賀津子と改めま  
す。夫の泉義さんは科学者で大学の研究室での仕事や研究が主でしたが妻賀津子さんの影響大きく茶の湯を共に習い、遂には表千家の師範免状も取得、更に茶道具に大変興味を覚えお金貯まる  
と茶道具を買い求め、松川家は夫婦相和して茶の湯を一筋に極めてゆきます。このような松川家は二人の人間性にひかれ、又茶室や集められた茶道具への興味と相まって多くの茶人や弟子達が集まり一つのサ(茶)ロンの様相を呈していたようです。賀津子さん60才の時、泉義さんが人間60才は一つの



平成29年6月18日、大阪狭山市茶華道協会は協会創設40周年の記念祝典・茶会を催しました。記念講演には南宗寺田島碩應老師を招き、また茶音頭点前や音楽に合わせて各流派のいけ花競演を行う等、華やかな宴を繰り広げました。40年間、この大阪狭山市で伝統文化である茶の湯いけ花の教授伝達に尽力された松下孝子さん始め加龍道子さん・松川知代さん・岸田よしこさんの4人の方がその永年の働きを顕彰され表彰を受けられました。AGUA編集室はこの4人の方の中で最も高齢の岸田よしこさんに次いで来年は卒寿迎えられる松川知代さんを「大阪狭山に生きる」にご登場いただくことにしました。



けられています。  
松川知代さん89才。今も豊饒として集まる弟子達に稽古をつけ、訪れる人の為に茶を点てています。「何も特別なことを考えるでなしにただ淡々とお茶を点てている。幸せです」と知代さん。取材に訪れた時横におられた息子さんの智洋(次男)に聞きました。  
「お母さんってどういう人ですか」「そうですね、人の為に生きている、見返りを求めない働きが見事でそれには息子でも感動します。一期一会を大切にそのまま生きていく人ですね」  
来年の卒寿、心から祝いたいと願って終えます。 ㊦